第6回　阪神新地域ビジョン検討委員会　議事録概要

１　日　時：令和３年 11 月１日（月）　15:30～17:30
２　場　所：尼崎商工会議所　601 会議室（尼崎市昭和通 3-96）
３　出席者
　委　　員：赤澤委員長、佐久間副委員長、松元副委員長、大平委員、定藤委員、
　　谷口委員、水野委員
　行政委員：西川委員、堀越委員、大上委員、升井委員、中郷委員、平井委員

４　内　容
（１）今後のスケジュールについて
（２）阪神新地域ビジョンの本体案について

【委員長】
　いよいよ議論が深まり、次回はパブリックコメント案が出てくるという状況にあり、本格的に喧々諤々と議論するのは本日までで、これで委員会としては一定の役割を果たすことになる。よろしくお願いする。まず、事務局から今後のスケジュールについて説明いただく。

【事務局】
　資料１により、新地域ビジョン策定に関する今後のスケジュールについて説明する。第４回及び第５回に新地域ビジョンの実現に向けたシナリオについてグループディスカッションをした結果を踏まえ、第６回では本体案について検討いただく。
　前回の検討委員会以降、10 月９日に地域ビジョン委員対象の意見交換会を実施し、赤澤委員長に出席いただいた。また県民の方との意見交換の機会として、10 月 28 日には阪神南地域の未来フォーラムを実施し、今月 13 日には阪神北地域未来フォーラムを実施する予定である。
　これらの意見を踏まえ、12 月頃開催予定の第７回検討委員会でシナリオを含めた本文案の内容を確定、１月にパブリックコメントを実施し、２月の策定を予定している。

【委員長】
　阪神新地域ビジョンの本文案についての意見交換に先立ち、前回検討した結果を踏まえて修正したシナリオのタイトルや構成について事務局から説明いただく。

【事務局】
　資料２により、シナリオに関する検討結果について説明する。前回の検討委員会からタイトル名を変更した箇所は黄色表示とした。
　シナリオ４は、外国人が地域コミュニティの一員として、個性を活かして生活するという

観点から、自分らしいライフスタイルの実現として、柱立て３から１へ移動。
　シナリオ９は交通形態の変化と移動権の確保に関する内容を分離して、再生資源エネルギーの観点に絞り、柱立て３から２へ移動。
　シナリオ 13 は地域と高齢者とのつながりを重視し、柱立て１から３へ移動。

【委員長】
　今日は第１章から５章まで検討いただきたい。はじめに、第１章から第３章について事務局に説明いただく。

【事務局】
　資料３により、本文案第１章から第３章について説明する。第３回検討委員会で提示した「骨子案のイメージ」及び第４回検討委員会で提示し、確定をいただいた「骨子」をもとに作成したシナリオと、全県ビジョンのたたき台としていた将来構想試案等との整合性を図り、本文案を作成した。
　第４回、第５回検討委員会でも阪神地域らしさを念頭に議論いただいたが、ビジョンの理念や各シナリオが阪神地域の歴史や風土などから導き出されたこの地域ならではのものであることが分かるよう骨子から逸脱しない範囲で加筆した。
　第４章のシナリオにつながる内容として第３章（２）②近世までの発展の軌跡については、柱立て２の「自然、歴史、文化が息づくまち、人を育てるまち」に関する内容を追加した。また（２）③近代の発展の軌跡については、基本理念の「コ・クリエーションなまちの実現」にあたり、自律した市民性を表す内容を追加した。第３章（６）①水害への備えについては、災害対策の歴史を大幅に追加した。

【委員長】
　基本的に骨子のとおりとなっているが、表現やニュアンスが違うという意見があれば発言をお願いしたい。

【委員】
　阪神間モダニズムというテーマが全体的に強調されていて、それ自体はいいことだと思う。一方で、阪神間モダニズムの概念そのものがふんわりした概念なので、ふんわりと使うと何でもありになってしまい、地域ビジョン全体が説得力がないものになるのではないかと懸念している。例えばＰ８の 10 行目「後述する阪神間モダニズムの端緒ともなり」は酒造関係の文化が豊かな教育や新しいものを取り込む気風を見いだして阪神間モダニズムにつながったという記述だが、広く考えればそういう側面もあるかもしれないが、一般的に阪神間モダニズムは大阪から、阪神、阪急の電車がつながってそれに伴っていろんな文化や人の移動があって作られてきたという経緯がある。この地域から自然発生的に生まれたのではないので、誤解を与えるのではないか。「豊かな文化や地域の気風が、その後の近代化につながった」というような記述にして誤解のない表現にした方がよい。阪神間モダニズムは、無理に

出さないほうがよいのではないか。
　また、P10 の２行目の「阪神間モダニズム時代の先駆的なアートである具体美術」は間違いである。具体美術は 1954 年スタートの組織で、阪神間モダニズムは戦前までの文化である。「吉原治良」という具体美術のリーダーが阪神間モダニズムの重要な人物の１人なので、つながってしまったのではないか。

【委員長】
　この辺りの詳しいことは最終案を作るまでに確認いただきたい。阪神間モダニズムは阪神間の特徴的なもので、一般的に入り口としてはいいという意見だった。削除するか継続するかも検討いただきたい。私の印象では、こういう文化があったという事実と、その文化が直接ビジョンにつながるというより、民間も含めていろんな多様な主体が、文化や生活面に至るまで根づいていたということが、これからのコ・クリエーションにもつながりうる。それを強調する又はそれが理解できるような部分だけ残すという選択肢もあるのではないか。

【委員】
　県民の方に広く読んでいただくために「読みやすさ」が大切であるが、括弧書きの説明が多いので注釈を入れてはどうか。Ｐ７下「尼崎藩の城下町」など、説明が必要な部分が結構あるのでページごとに注釈を入れ、言葉が分からない人は下の注釈を見るように書いた方が読みやすい。本文は括弧書きをなくし、ページ下部または別ページに注釈に情報を盛り込み、阪神地域の様々なことを知ることができるように工夫いただきたい。

【委員長】
　注釈がすごく多い資料もある。読み手のことも考えて内容をシンプルにして文意を伝えることに注力いただきたい。

【委員】
　Ｐ９（３）「許容性のある風土」とあり、「許容性」という言葉が、P13 基本理念の説明にも出てきて重要なキーワードになっているが、この「許容」の言葉のニュアンスに違和感がある。「許容する」には許すとか、ここまでならいいよと許可する意味合いがある。また、「許容性」は上から下に命じるという印象がある。同じような意味合いで使われている「寛容性」という言葉にはいろんなものを受け入れるやわらかさがある。「許容性」よりも「寛容性」とか、「柔軟な創造性」といった言葉を使うことで、この地域に育まれた気質と阪神間モダニズムで展開した力が、これからの時代のお手本になって新しく創造していこうというような呼びかけにつながる。「許容性」は、意味的に間違っているわけではないが、漢字から感じる印象が、仕方なしに受け入れるような感じがするのだが、どうだろうか。

【委員長】
　「寛容性」が「許容性」を生み出すわけである。「寛容性」か「許容性」のどちらかとい

えば、優しい印象を与える「寛容性」に統一して修正いただくことでどうか。

【委員】
　第３章は他地域と違う阪神地域の特性が整理され、前回の検討委員会以降のシナリオを意識して作成されている。視覚的な問題であるが、第３章と第４章がどうリンクするか記載してはどうか。例えば、構造として第３章（２）（３）の下にリード文のように、昔からこういう特色がある、だからコ・クリエーションにつながるという流れで、最後に箇条書きで視覚的に分かりやすく記載するとアクションにつながりやすいのではないか。読みやすさとも関係がある。
　もう一つは、第３章（３）寛容性がある風土だからこそ、第４章につながる阪神地域の特色が出たらいい。（３）④少子高齢化は阪神地域の特色を書いているが、阪神地域に限らない潮流に見えてしまう。（４）⑤持続可能社会の実現の必要性についても阪神地域に限らないので、阪神地域ならではの特色が見えるように整理するか、第２章の社会潮流で整理するといいのではないか。

【委員長】
　大きな構成を理解いただくための説明文を各所に記載すればどうかということだった。全体の構成としては、第１章で経緯があって、第２章で大きな社会の流れを説明した上で、第３章で阪神地域の特性、変わらない価値を踏まえてピンチをチャンスに変え、第４章のようなシナリオをコ・クリエーションで生み出そうという流れである。この流れが分かるような説明文が各章、各節で必要かもしれない。２つ目の指摘は④少子高齢化ではなく、阪神地域がボランティアや NPO 法人などの変わらない価値がしっかりと根づいていることを書くのがいいという意見だった。パブリックセクター、民間セクター、公的セクターでもなく、新しい主体、いろんな方が活躍しているという価値を書けばいいのではないか。

【委員】
　第３章（６）①に「住民の自主的な防災に関する意識が高い地域です」と書かれているが、これに対するエビデンスがなく、何を指しているのか分かりにくい。具体例を挙げると納得できる文章になるのではないか。

【委員長】
　第３章（６）①には「～だからこういったことが期待される、期待できます」、という文章に修正いただきたい。

【委員】
　第３章は阪神地域の特徴を強調する章なのでエビデンスを入れてほしい。（６）阪神淡路大震災の経験を活かした災害の備えで、水害と阪神淡路大震災が混在してざっくり書かれているが、もっと書けるのではないか。阪神淡路大震災があって、その大きな災害の中で、人々

の助け合いやまちづくりの活動が育まれてきたことがあるので、経験してきたことを入れ込むといいのではないか。

【委員長】
私の専門の公園計画では、日常時に使われる場所が避難に使えるということで、非日常時に練習するのではなく、日常生活からやっていることを、阪神淡路大震災を経験して防災に活かしてきた。こういったことがあり、我々は経験を経てどのような状態なのかを記載いただきたい。
今回の本題ですが、２回の意見交換でシナリオの具体案を検討いただいた。P19～37 は修正途中なので、各シナリオ以外の第４章と新たに示す第５章についてご意見をいただきたい。事務局から第４章及び第５章について説明いただく。

【事務局】
第４章及び第５章について説明させていただく。第４章の構成は、骨子案のとおり（１）新地域ビジョンの基本理念（２）新地域ビジョンの実現に向けた方向性（３）シナリオとする。（１）では、新地域ビジョンの基本理念を「コ・クリエーションなまちの実現」にした地域性、歴史及び経緯に触れ、住んでよし、働いてよし、集ってよしの３つのよしの着目点を表した。（２）では、基本理念の表現の観点から４つの方向性に分け、古くから地域の人々が協働し、新たな文化を創造してきた“個”の資質の高さについて触れている。（３）は、４つの方向性に対して 18 のシナリオを描いている。
先日のビジョン委員の意見交換会で、「コ・クリエーションなまちの実現」という基本理念が、幅広い年代に受け入れられるか、馴染みやすい表現であるかという観点でほかの表現に変えてはどうかという意見があった。他の案を４つ挙げたので検討をお願いする。
個別シナリオ内の見出しは、「うまれる変化」を「2030 年頃の中間像」へ、「めざしたい姿」を「2050 年にめざしたい姿」にそれぞれ変更した。また、各柱立ての説明のあとに各シナリオの概要を P15～18 に追記した。
グループディスカッションの結果を踏まえて方向性を変更したシナリオを紹介する。シナリオ２「いつからでも誰からでもスタートアップ」はスキルアップだけでなく、スタートアップまでを最終目的とした。シナリオ３「多様な人々が住みやすいまち」はシニアと女性だけでなく、外国人、障害者など多様な方々が個性を発揮し、住みやすいまちにすることを目指す内容にしている。シナリオ 10「世代を超えてつながるまち」は高齢化や若者の流出の問題などをニュータウンだけに限定していたものをまちに広げる内容に改めた。シナリオ 11「自分にあった“つながり”に参加できるまち」は「おせっかいがおせっかいでない家族のようなまち」としていたが、多様なコミュニティが県民によって見いだされ、認識していくということと、参加しやすい環境が整えられているという目標に変更した。シナリオ 17「まちなかのにぎわいを創出する」は、仕事や仕事環境を主な内容としていたが、祭りの再発見、道路やオープンスペースを活用したにぎわいを含めた。
第５章は、第１章から第４章までに描かれた内容を踏まえ、阪神地域の住民、企業、大学、

行政がそれぞれ実現に向けて取り組むべき内容を書き上げた。あまり細かく書き込まず、資質の高い“個”が、想像力を発揮し、自ら取るべき行動を見つけ取り組むことを念頭に置いた。ビジョンの実現に向けたイメージ図を別紙で作成したので、こちらについても意見をいただきたい。個別シナリオの内容については、前回及び前々回のグループディスカッションの結果を踏まえ、現在修正中である。本日、第４章に記載した概要説明部分も検討いただき、個別シナリオと併せて第７回検討委員会でご確認いただく。よろしくお願いする。

【委員長】
　第４章、第５章について、過去２回に協議したものが十分反映されているか、全体の本文案として分かりやすいか、これまでに議論されたものが網羅されているかを含めてご意見、ご質問をお願いする。

【委員】
　タイトルの「コ・クリエーション」について、10 月９日の意見交換会でも議論されている。「コ・クリエーション」という言葉自体は新しく、新鮮な言葉でいいが、P13 の下に「暮らしの魅力をコ・クリエイト」と動詞が出てきて、そういえば「コ・クリエーションな」という使い方はしないなと思い始めた。「クリエイティブ」や「クリエーション」という言葉で考えると、「クリエイティブな会社」とか「クリエイティブな人材」という形でカタカナでも形容詞を使うので、「コ・クリエーションな」という使い方に違和感がある人も多いのではないか。だから、「コ・クリエイティブなまちの実現」という形容詞か、「共創」という漢字を使って意味を伝えた方がいいのではないか。案１から案４まで提案されたが、分かりやすい言葉に再度検討されることを提案したい。

【委員長】
　意見交換会に参加して、現在の基本理念が「間違いやすく、分かりにくい」と強く言われた。ビジネス用語としては、コ・クリエーションが一番定着しており、我々は使いやすいが、表現に合わせて「コ・クリエイティブ」に変更してもいい。漢字にすると「共創」、精神的なニュアンスも含めて「価値共創」、と「価値」という言葉を付け加えることもあるが、今回は価値にこだわったものではなく、さまざまな場面で人間関係、コミュニケーションの共創という意味なので価値をつけなくてもいい。主題と副題の関係もあり、キャッチコピーはなかなか最後まで決まらない。

【委員】
　「共創」や「コ・クリエイティブ」にしても聞きなれない方は知らないので、副題で意味を明示すればいいのではないか。「ともにつくる」や「みんなでつくる」が副題にあるとなんとなく意味が分かる。これからいろんな計画に共創という言葉はどこにでも出てくるので、かぶらない方がオリジナリティを感じるのでよい。

【委員長】
　現時点の他地域の基本理念を紹介する。コ・クリエーション、共創の概念は個性的な印象ではある。
神　戸：みんなの希望にフィットするまち・神戸
東播磨：水辺・ものづくりのまちでつながりワクワクする未来
北播磨：田園の恵みが生み出すここちよい未来の暮らし
　　～ひょうごのハートランド・北播磨～
中播磨：多様な地域に、個性(ひと)が輝く中播磨
西播磨：光と水と緑でつなぐ元気・西播磨
　　光：人・地域・産業がキラリと輝く／水：森・川・海が美しく連なる
　　／緑：森林・農地・都市がいきいきと彩られる
丹　波：世界とつながる但馬
　　～わくわくするまち、あなたと共に～　（事務局案）
但　馬：「人」を創り、「森」を（守り）活かし、「農」をはじめとする生業を興すことで、
　　安心して住み続けられる、自立した活力あふれる‘ふるさと丹波’の創生
淡　路：人と自然の“環(わ)”が広がる淡路島～食いっぱぐれのない未来の島へ～

【委員】
　オリジナリティとしてはいい。「コ・クリエーションなまちの実現～住んでよし、働いてよし、集ってよし」を聞いたときに、三方よしの話とコ・クリエーションが情報渋滞していると感じていた。「コ・クリエーション」、「コ・クリエイティブ」、「共創」の意味が分かりづらいという話があったとして、「コ・クリエーションな」と形容詞にするのではなく、「コ・クリエーション！ともにつくる、住んでよし、働いてよし、集ってよし」とシンプルにしたらすっきり伝わるのではないか。「コ・クリエーション」「共に創る」は同じ言葉であるが、目新しいオリジナリティを打ち出していきたいということを大切にすると、「まちの実現」がなくても基本的にまちの話をしているので書かなくても伝わるのではないか。

【委員長】
　構成は「コ・クリエーションなまちの実現」があって、どんなまちか副題についている。コ・クリエーションの説明を副題でもう一度してもいい。

【委員】
　「コ・クリエイティブ」よりは「コ・クリエーション」の方が一般に使われているので、使うならば、「コ・クリエーションな」と形容詞の使い方ではなく、「まちのコ・クリエーションを育む」とか「まちのコ・クリエーションへ」とか名詞で使って違和感のないような組み立てにする方法もある。「共創」という言葉については、ここ５年くらいで普通の言葉になったのではないか。最近の話題では、岸田内閣が「新時代共創内閣」とネーミングしていた。分かりやすさを強調するなら「共創」でも良いと思う。新鮮さという意味では「コ・ク

リエーション」の方が、ワクワク感があっていい。新鮮さという意味では「コ・クリエーション」の方が、ワクワク感があっていい。

【委員長】
　基本理念について「コ・クリエーション」の言葉を前に出してイメージを伝える案、もしくは、「コ・クリエーション」を適切に使えるような構成にするということで、２案ほど絞って事前に意見をいただき、今回は考え方の議論ということでよいか。
　私が意見交換会でコメントしたのが、P14 シナリオ①～⑱まであって、分かりにくいという意見があった。話を聞くと、防災とコミュニティがつながっていたり、シナリオとシナリオの間がつながっていたり、そこから阪神間らしさや私たちが目指すところつながっていると聞こえた。今まで議論してきてシンプルに４つの柱立てに分けているが、関係性を示してはどうか。シナリオをつなげたら分かりにくいという意見になりかねないがチャレンジするか。

【委員】
　シナリオ①～⑱が４つの柱立てに分けられているが、柱立て１は「個人」に基づいて、個人または個性の発揮が認められるという段階があって、柱立て２は、地域資源に基づいて、地域の自然や文化、地元に何があるかをもう一度見つけてしっかり学んでいこうという姿勢があり、それをベースにして、柱立て３で、協働、一緒に創ろう、つながろうという段階があって、柱立て４で、豊かなまち、にぎわいのあるまちが実現していって、外部からも人が集まってくるような人気のあるまちになっていくという、ストーリーであると理解している。

【委員長】
　確かにそれは納得感がある説明である。シナリオ間の細かい関係性というよりは、柱立て１～４のつながりを分かりやすく図化するか。柱立て２の変わらない価値を元に自分らしいスタイルがあり、つながり、回りながら価値がつながって新しい価値ができあがる。図で説明できると理解しやすいのかもしれない。

【委員】
　基本理念を実現していくために、それぞれのレベルで目標設定できるし、実現していくステップとしても流れを理解しやすい。個人の取り組みはこうですよ、地域のことを学んでつながりましょう、にぎわいがあって世界に誇る阪神地域になっていくという形にもっていける。そういう風に考えると、前回移動したシナリオ９「地域で循環するエネルギー」は柱立て２ではなく、柱立て３にした方が良いのではないか。柱立て３には、防災減災や高齢者の対応など普遍的な社会的課題をみんなの協力で乗り切ろうというテーマがあるので、柱立て３に移動してみんなの課題とするとストーリーとしては綺麗になる。シナリオに関しては、P16「Ⅱ自然、歴史、文化息づくまち、人を育てるまち」に「脱炭素社会の取組をすすめます」と唐突に出てきて違和感があった。シナリオ９は、柱立て３の方が理解しやすいと考え

る。

【委員】
「住んでよし、働いてよし、集ってよし」３つの軸と、４つの柱立ての関係性をどう整理するか。柱立て２のシナリオ⑤～⑧が変わらない価値として基盤にあり、その上に個の豊かさの創出があってピラミッドみたいな図もできるし、そこと、「住んでよし、働いてよし、集ってよし」がリンクする。柱立て１、２を合わせて住んでよしにつながるような関係図で示されると分かりやすい。全県ビジョンは約 40 のシナリオの関係図を書いて複雑になったが、シナリオを組み合わせてこうしようと発展的に捉えると面白い。カードにして遊んでも面白いかもしれない。運用面では関係してくるが、計画書の中では分かりにくいので、大きなブロックのフロー図で関係性が分かればいい。

【委員長】
柱立て２を土台にして、コ・クリエーションの中身を意味するような柱立て１、３が上にあって、一定のにぎわいになり、最終的に「住んでよし、働いてよし、集ってよし」の大きなコ・クリエーションなまちにつながっていくような流れがみえるように積み上げの流れは作った方がいい。
P14 の説明だけで図化したほうがいいのか、第５章と合わせて、主体を含めた方がいいのか、図化してみると難しく理解が困難で分かりにくいのであれば分けてもいい。P14 について今の議論で図化してみる、第５章の議論も踏まえて統合にチャレンジしてもいいが、それぞれ分かりやすい図で判断するのはどうか。

【委員】
実際に図を作成してみないと分からないが、柱立て１、２が平行に配置されて、それが全体の土台になる。まず、自然や文化という地域資源があって多様な個人がいる。この２つが収れんしてつながりコミュニティが生まれ、さらに賑わいを作り出していく、時系列でいうと３段階の図になる。その３段階の図を別の角度から見たのが「住んでよし、働いてよし、集ってよし」になり、その全体図で、コ・クリエーション、共創の形成を説明できるのではないか。更ににぎわいのあるまちの実現がぐるりと回ってもう一度個人や地域の文化や歴史にフィードバックする。そういう循環的な図になるのではないか。

【委員長】
理系なので自然環境を土台にしがちであるが、人が土台であるという提案が新しく、循環して発展していくのではなく、循環してさらに強固な新しい個性、寛容性、人について土台も膨らんでいくというような、循環性を図化できたらいい。

【委員】
図化して分かりやすく伝えることは大事なことであるが、県民の方に考えてもらうのも効

果があるのではないか。書きすぎずゆるやかな表現でもいい。

【委員長】
余白を作るような視点は重要である。つい漏れがないよう書きがちだがビジョンは決まってしまう価値ではない。分からない新しいものを創る、一緒にやりましょうというニュアンスであれば、シンプルな形より全部図化して引き算をする形でもいい。P15 から P18 の各シナリオの概要説明についてもご意見をお願いする。

【委員】
P14 にシナリオタイトル、P15 以降が個別のシナリオの概要説明、P19 からシナリオがあり、３段階あり回りくどい感じがする。P14 を図化し、個別のシナリオは P20 以降に出し、タイトル、概要、各シナリオを２段階程度にするといいのではないか。

【事務局】
各シナリオが未完成であるので、議論用に概要をつけているが、概要をつけるかどうかを議論いただきたい。

【委員長】
P15 以降を見ればシナリオの概要が分かるので、各シナリオのタイトル下のテキストボックスに入れるのもいい。

【委員】
P20 以降の各シナリオは「課題」から「2050 年に目指したい姿」まで４つに区分されているが、どこにつながっているのだろうという部分があって、１つの項目が２つに分かれる場合もあれば、３つの項目が１つに集約されることがあっていいが、ストーリーで流れていくか事務局で確認してほしい。

【委員長】
新ビジョンは中間像があるが、いきなり 30 年後と言われても新たな技術革新や価値観が非常に多様化、変化していく中で、10 年後こうなっていたら次のステップに新たにつながるという２段階構成のイメージが強くあった。これができたらこれできるのか、みたいに何となく上段と真ん中と下段に分かれていて、三角矢印でつながっている、２個目と３個目だけにつながっているようにも見えるが、よく見れば対応できているような表現があれば理解がしやすい。

【委員】
例えばシナリオ３の「課題」から「2030 年頃の中間像」は上段に高齢者があるが、「2050 年に目指したい姿」の上段に LGBT がある。また、シナリオ５の「将来の取組」で「空き家、

空き地」がポツンと出てきた。シナリオに突然出てくるような内容がないよう、読み手にとってなんとなく似ている話でつながり、見える感覚で整理をしてほしい。

【委員長】
　最終像を主に議論していたため必ずしも完璧な意見が出ている訳でもないので、つながりの精査をお願いする。

【委員】
　ざっくりした話だが、「2050 年に目指したい姿」を全体的に見ると、達成の可能性や到達目標としての難しさにばらつきあるのではないか。課題によってはすごく具体的なことが書いてあるところがある一方で、ふんわりした話が書いてあるところもある。こうした点について、全体的にバランスを取ることができたら説得力のある全体計画になるだろう。全体が出そろった今だからこそ、ここに具体的要素を足そうとか、逆にここは具体的すぎるなど調整をお願いしたい。シナリオ 10、11 の「2050 年にめざしたい姿」の表記形式を統一してほしい。シナリオ７で、阪神間モダニズムと具体美術は直接関係ないので、左下の白髪一雄の作品の写真は誤解を生むので注意が必要である。

【委員】
　新地域ビジョンは参考書のようなものになるのか教科書のようなものになるのか内容を見ていて分からない。検討委員会に参加して委員の方々の意見を聞いて読み込むと理解できるが、これを見た一般市民はこれが教科書だとすると、参考書がなく何をすればよいのか、市民活動として活動するにはどうしたらいいか分からないのではないか。第５章にあるように、阪神地域の住民が輪を広げて積極的に活動して、いろんなコミュニティに参加することで課題が解決するのか。阪神地域らしさや阪神地域の実例をあげて、こういうことをしたらいいよと説明がないと難しいのではないか。

【委員長】
　新しくビジョンを知る方や改めて見る方に対して丁寧に説明が必要であるとよく言われる。これが正解という内容はないので教科書ではない。次の正解を見つけて、次の正解にたどる活動をするための方向性や、こういったことが考えられるということを皆で共有した上で、それぞれの活動を生み出しましょうという参考書である。
　全県ビジョンでも定義しているので、地域版ではできるだけかみ砕いて分かりやすく、文章だけでなく、こんなことしてきましたという内容が、第１章に１ページ以内で、あればよい。こんなことあんなことをやってきた、あれがビジョンだったとのか、ということを、行動の正解を与えるのではなく、みんなの経験、希望を集めて、方向性を示すのがビジョンであるので、事例でイメージを積むことは大切である。分かりやすくなるが長くなる。配慮いただきたい。

【委員】
　各シナリオに載っている図表（住みたい街ランキングやひょうごの豊かさ指標）は現時点での評価である。2050 年の想像が難しければ 2030 年のイメージで、今取り組んでいる最先端技術の事例や写真などの図的なイメージがあれば、目指したい姿が一目で分かるのではないか。阪神地域でご活躍の方の事例や写真を掲載するなど、全県ビジョンでは神戸市の将来像の CG がある。そのとおりになるわけではないが視覚的なイメージがあると、イメージしやすい。もう１点は P13～14 は重要であるが、文書が多い。地域の特色は第３章までとし、第４章以降は図とともに、「こんな内容を目指す」と簡潔に述べる方がよいのではないか。

【委員長】
　事務局はシナリオをできるだけ視覚的に事例を紹介し、テーマごとに濃淡があるかもしれないができるだけ配慮いただきたい。

【委員】
　先ほど一体何をすればいいのかが分からないという意見が出たが、P15～18 のシナリオの概要説明の文書の最後が「目指します」になっている。誰が目指すのかが不明確で、一緒にビジョンをやるという書き方が薄いと感じる。各シナリオの概要は「目指しています」や「こんなまちが実現できています」という語尾にしてはどうか。

【委員】
　地域ビジョン全体がこれから先に起こるだろういろいろな問題や可能性についての目標や課題を共有するためのパンフレットなので、これから起こりうる可能性や課題を共有し、課題や目標を達成し、解決していくストーリーになっていると考える。そして、ストーリーであると同時に、いろんな参加の仕方を示したメニューでもある。「あなたも興味のあるストーリーに参加してみませんか」という、導入の文章やキャッチフレーズを入れると良い。そのようにして、さまざまな問題に対して、「これなら自分も参加できるかも」と、人々を引き込む流れができるのではないか。地域ビジョンそのものは基本の文章なので固めの表現になるが、一般市民向けの冊子やチラシにまとめ直していくときに、柔らかい言葉で、「市民参加のメニューです。どうぞ活用してください」という形でお渡しできるといい。

【委員】
　シナリオが県民の方に渡ったとき、どこからでてきたのかが分からない。阪神新地域ビジョンを作るために、ヒアリングやアンケート、語る会、未来ミーティング、未来フォーラムなどの声を拾って課題や将来の姿を描いたのがシナリオである。出てきた意見をつないでシナリオにしたということが分かる形にするのがいい。一人一人あるいは各企業や大学が何をするかは第５章の実現に向けてというところで、共有するためのパンフレット、もしくは手引きである。ビジョンが完成してここから始まっていくが、やってくださいと投げるのではなく、一緒にやっていけるような仕組みがここに入ればよい。

【委員長】
　どこの意見を取り入れたか、共有しましょうという本来の仕組みを入れる。P15 以降、概要説明の語尾表現を整えるが、例えば、全県ビジョンでは楽しむことができる、暮らしが実現できている、という状態を表現する形だったのではないか。書いた人が目指す表現でなく、状態を共有しますという表現にまとめていただきたい。シナリオ３「多様な人々が住みやすいまち」になるために選んでもらわないといけないし、知ってもらわないといけない。その時に知られる、選ばれる前の入り口のことも書いてもいい。シナリオ 17「まちなかのにぎわいを創出する」では、貸店舗やオープンスペースについて、もしかしたら法が改正されて農地にレストランとか、いろんなところでいろんなにぎわいが阪神地域にできるかもしれないニュアンスも広く入れた方がいい。

【委員】
　シナリオ８「次世代につなぐ阪神文化」で「周りの人たちに伝え」を「周りの人たちと考え」にしたら発展性が見込めるのではないか。また、地元、地域の２つの言葉が混在しているところがあり、地元の子供に伝えるだけでなく地域に来た人にも伝えることを考えると、地元なのか、地域なのかこだわった方がいい。
　シナリオ８の「2050 年に目指したい姿」で「誰もが生涯学習リーダー、講師になって」と書かれていて、誰もがしていたらリーダーや講師はいらないのではないか。もう少し発展性のあるイメージが描けるとよりいい。

【委員】
　シナリオ８で、美術館や博物館、文化施設などの組織や施設に関する言及がない。「将来の取組」の中で、学校、大学と連携するという記述がある。それに加えるか、別立てで美術館、博物館などの取組を付け加えていただきたい。阪神地域は大変豊かな美術館、博物館、文化施設が充実している地域なので大いに活用してほしい。

【委員】
　P12 住民が防災に関して意識が高いとあり、P31 に防災士の話がでている。防災士は防災意識が高い市民の方が自ら志願して勉強して取得する資格で、兵庫県は数千人いるが、京都府は数百人しかいない、数字をもってエビデンスを示すことができたらいい。

【委員】
　シナリオに詳しい表があるが、「データで見る阪神地域」でどのシナリオに対応しているか記載すると分かりやすい。本当に大事なところは本文にも記載する。

【委員長】
　本文をシンプルにするためにも資料編を充実することをお願いする。次回の検討委員会で

はより早めに委員に資料を確認いただき、中身を精査してパブリックコメントに備えることで委員の方にもお願いしたい。

（ホワイトボードの図について）それぞれが協働という形で、柱立て１と２、人と環境が土台にあって柱立て３がコ・クリエーションによってにぎわいが実現されている。柱立て１と２が土台ではなく、つなげてもいいし、結果的ににぎわいや魅力がうまれる。循環であれば回る感じがイメージしやすい。この場合は柱立て４つのイメージで書かれている。それを踏まえて第５章は主体が実現に向けてどう機能するかという構造である。

【委員】

第５章は取り組もうと思った県民が見るメッセージの部分である。全県ビジョンは誰がというのを明確に書かずに、基本姿勢と動かす仕組みの大きく２つである。ビジョンを進めるにあたっての共通の姿勢をみんなで共有できたらいい、これからこんなことを意識するとつながってくるという意味を入れて、基本姿勢のところでプロセスを楽しむといいですよというメッセージ性を込めた部分もあった。策定の背景で、これを実現するためには競争よりも連帯だというメッセージ的なもので関わってくる。このシナリオを進めていくためには、どんなことを我々は意識していけばいいかメッセージを載せてはどうか。その誰がというのは、これからいろんな組み合わせでやっていければいい。その関係性は、図示するのは難しい。第５章で４つの主体になっているが、これから阪神地域に関わる人、住民と書くと住んでいない人は関係ないのか、これから関わりたい人へのメッセージを入れるといいのではないか。例えば、企業、大学とあって、専門学校はどうなのか、ワードによる縛りもあるが、これから参画いただけるような方々にも何かメッセージを伝えるのがいい。

【委員長】

事務局が作成した第５章の図を見ながら議論する。

【事務局】

簡単に説明させていただく。大学、企業、阪神地域住民、行政、４つの主体に分けている。既に住んでいる方と新しくコミュニティに関わる人が含まれる阪神地域住民、企業、大学が重層的に関わり合うという意味で円を重ねている。行政は土台となりコーディネート、場を提供する役割としている。各主体の取り組みによって、ビジョンを実現し、住んでよし、働いてよし、集ってよしになる形を描いた。

【委員長】

第５章の図はシンプルなほうが分かりやすいと意見をいただいたが、各主体の得意技やいろんな価値観があり、地域がいろんなステージで関わる可能性があるということで、個性の限界が別の方にとってチャンスであれば、関わるということがあるのだろう。企業は特殊な役割があり、それぞれ得意技を書けばいいのではないか。大学は場を提供することや人材育成、学生は新しい息吹を加えることができる。行政は基本、場の提供や情報の共有などの土

台を担うところだろう。

【委員】
　地域ビジョンを実現していく中心的な主体がどのような意識で取り組んでいけばいいか簡単にまとめられている。そういう観点では冒頭に、「共創、コ・クリエーションはこういうふうに実現してください」という文章や説明を入れたらいい。書かれている内容は問題ないが、一般的な地域づくりの文言と変わらないので、さりげなく、共に創るとか、コ・クリエーションを入れて特色を出してほしい。企業・大学・行政の項目は一般的な関わりでいいと思うが、市民の項目は、今やっていること、今参画している取組を発展させていくことが大事であるとか、楽しい参加の仕方を大切にするとか、具体的にどのように参加したらいいのか手引きになるような、分かりやすい言葉が必要ではないか。市民と行政などをつなぐ中間的な存在であるNPOや一般社団も加えてはどうか。

【委員長】
　記載されている内容に参加できるのか、ビジョン委員会に入らないとできないのか、という話もあり、例えば自治会活動するのはビジョンなのか、ビジョンを読んで自治会に入ることがビジョン活動なのか、これもビジョンだと広く県民が一丸となって向かっているというのがビジョンであればどう評価するのか。どこまでできるのか読み手にとっては必要ではないか。目標像も随時考え、共有しながら、自分の居場所で自己実現や地域を発展させるというニュアンスなのか。県としてどうかということも含めて検討いただきたい。複雑な図は書かないことになる。第４章で述べ、第５章では各主体の得意技を書き、入り口（第１章）でどこまでがビジョンか、こう活動しませんかという内容のメッセージになるのだろう。

【委員】
　シナリオが幅広く網羅的なので全体として地域ビジョンを共有することが重要ではないか。多様な人がそれぞれの立場から参加している公共的な活動について、その意識や行動の底上げも大事なのではないか。また、起業であるとか、様々なにぎわいというようなものも含めて、全体としてこの地域が活性化していくかどうかを検証していかなければいけない。その時、企業や団体、大学も大事であるが、地域ビジョンの中心は地域住民である。だから地域住民という主人公にメッセージを送る形で考えてほしい。図も地域住民を一番上に持ってきてほしい。第５章の中でも地域住民へのメッセージをもっとたくさん書いてもいいのではないか。

【委員長】
　住民の特色や得意技を示し、NPOなどの主体も書く。どう評価するのかということは行政的に考えていただき、広く社会が変わる流れがビジョンの成果と言ってもいい。短期的に評価するとしたら二次的な評価軸として、これが増えたとか広くこれがビジョンだと捉えることで判断いただきたい。修正案を少し早めに確認いただいてパブリックコメントに備えたい。